



大島大会 1日目 M50A のコース
 灰色のエリアは、1986年の三原山の大噴火の時の溶岩流のあと。ゴツゴツとした巨大な溶岩の塊である。
 テレインは縮尺 1:10,000 等高線間隔 2.5m で表現されたが、それも部分的には表わし切れない微地形地帯があちこちにあった。

「たのしい」「堪能した」 参加者のいろんな声が聞こえた伊豆大島大会

2014年11月23-24日 東京都伊豆大島
 ジオパーク伊豆大島オリエンテーリング大会

2日間総合結果

W21E

- 1 稲毛日菜子 東大 OLC 2:09:18
- 2 山本紗穂里 横浜国立大学 2:13:51
- 3 皆川美紀子 みちの会 2:33:30

M21E

- 1 尾崎弘和 トータス 2:46:53
- 2 寺垣内航 京葉 OLC 2:52:21
- 3 糸井川壮大 京大 OLC 2:53:37

W12

- 1 佐藤実紀 1:56:22

W15A

- 1 吉田菜々子 東村山市 1:45:48

W20A

- 1 宮本和奏 京葉 OLC 1:19:27
- 2 山岸夏希 公文国際学園 1:25:51
- 3 長谷川真子 東北大 OLC 1:36:40

W21A

- 1 長縄美春 入間市 OLC 1:44:51
- 2 番場洋子 ぞんび〜ず 1:46:20
- 3 渡邊彩子 トータス 1:53:22

W21AS

- 1 大橋朋未 早大 OC 2:01:23
- 2 片山保子 ふるはうす 2:02:00

- 3 水原真実 横浜 OLC 2:11:20

W30A

- 1 宮本知江子 京葉 OLC 1:34:18
- 2 大塚 歩 おひとり様会 1:55:11
- 3 清谷千鶴 横浜 OLC 2:04:51

W40A

- 1 吉田しのぶ 方向音痴会 1:32:23
- 2 宇野明子 多摩 OL 1:34:01
- 3 村越久子 静岡 OLC 1:53:45

W50A

- 1 渡辺加与美 入間市 OLC 1:48:55
- 2 植松裕子 入間市 OLC 1:50:31

W60A

- 1 酒井か代子 調布市 WR 協会 1:29:01
- 2 大場節子 サン・スーシ 1:33:42
- 3 今井 栄 ワンダラーズ 2:06:10

W70A

- 1 加藤伶子 入間市 OLC 2:08:37

WBL

- 1 高津寿三鈴 Club 阿闍梨 3:02:02
- 2 長友美子 千葉 OLK 3:07:23
- 3 池田玲子 3:29:39

WBS

- 1 江口沙綾 岩手大 OG 1:35:07
- 2 藤澤 優 岩手県立大 1:56:29
- 3 鈴木美紀 入間市 OLC 2:15:50

M10

- 1 須藤ひかる 入間市 OLC 1:41:24

M20A

- 1 橘 孝祐 KOLC 1:33:16
- 2 宮本 樹 京葉 OLC 1:41:10
- 3 国沢 楽 トータス 1:41:15

M21A1

- 1 国沢五月 トータス 2:14:51
- 2 赤坂太郎 2:17:45

- 3 小向和希 岩手大学 OLC 2:19:49

M21A2

- 1 細淵晃平 一橋大学 2:07:51
- 2 小山温史 トータス 2:11:35
- 3 岩田健太郎 東大 OLC 2:13:57

M30A

- 1 源後知行 みちの会 1:54:22
- 2 大塚友一 京葉 OLC 1:59:28
- 3 清谷智弘 横浜 OLC 2:06:35

M40A

- 1 田代雅之 静岡 OLC 1:44:29
- 2 森 竜生 横浜 OLC 1:57:28
- 3 竹下俊輔 筑波大 OB 2:12:04

M50A

- 1 小泉辰喜 東京 OLC 1:31:18
- 2 瀧川英雄 ふるはうす 1:32:34
- 3 吉田 勉 みちの会 1:36:04

M60A

- 1 海老沢正 入間市 OLC 1:23:41
- 2 大塚校市 千葉 OLK 1:27:32
- 3 小林二郎 入間市 OLC 1:32:04

M70A

- 1 小幡昭次 三河 OLC 1:35:26
- 2 児玉 拓 多摩 OL 1:40:31
- 3 岡野英雄 愛知 OLC 1:42:20

MBL

- 1 庄司拓央 星を見る会 2:07:56
- 2 濱部 大 2:39:43

MBS

- 1 的場洋輔 Nの会 1:26:24
- 2 山岸倫也 みちの会 1:53:11

砂漠オリエンテーリング

青空の下は見渡す限りの平原。赤黒い溶岩大地とそれを覆うススキの黄緑色でマーブル模様を作っている。

この大地に設置された挑戦的なコースに挑むには、自分の感覚を研ぎ澄ませ、脳をフル回転させる。コンパス1-2-3テクニックを駆使し、精度よく直進することを心がける。もちろん歩測も怠らない。

銀色に輝くススキの穂を押しおけて一歩踏み出すと次々に微地形が展開してゆく。そして次々と砂礫やギザギザの溶岩が現れ、そしてこんもりとしたススキの群落も現れて、なかなか真っ直ぐに進ませてはもらえない。

周囲に目印になるような大きな地形はほとんどない。遙か南に聳えている三原山火山の山かげが見えているくらいだ。

この大会のテレインは、伊豆大島の中央に聳える活火山・三原山のカルデラの中。度重なる噴火でカルデラ内部は砂漠となっている。木はあまり生えておらず、溶岩台地と砂礫の上にススキが生えている。遠くの見通しはよいのだが、ススキで近くの見通しは良くない。

ミス誘発テレイン

この大島のテレインをノーミスで走り切るのは難しい。ちょっとでも現在地が判らなくなると、リロケートに途方もなく時間がかかる。慎重に歩を進めてコースを辿ってみても、いつもより遅いペースに我慢ができなくなって、ペースを上げ、ナビゲーションが追い付かなくなるのだ。

私の参加したM50Aは百戦錬磨のベテランが競い合っているが、それでもみんな何らかのミスをしているようだ。

若者が多いM21Aクラスだと、大きなミスをする者が続出している。競技制限時間に間に合わない人も多数発生した。

このような砂漠のオリエンテーリングは、日本ではここ伊豆大島のカルデラでしか体験できない。

ラップ解析がむちゃくちゃ！

伊豆大島大会の特徴として、ラップ解析がムチャクチャな状況になっている。Lap Centerによるラップ解析のアルゴリズムには「レグの半分はミスをしていないこと」という前提がある。だがミスを頻発していた人にはこの前提を満たすことができないために、巡航速度がやたら遅くミス率が体感以上に少なくなる。それがこの大会ではとても多かった。

「あれ？ この人、こんなに足が遅かったっけ？」と思うようなデータになっている。

またベストラップを叩き出す人が一部に固まらずに多くの選手の間で分散していることも特徴的である。

危険なテレインでもある

ここは迷路のように面白いテレインであると同時に、危険の多いテレインでもある。

ケガ人が多い

今回の大会でも手や足だけでなく、顔にケガを負った人も多かった。

大地がギザギザな溶岩だけに、つまづく事が多い。ススキに覆われているところで小さな岩石の突起があると、簡単につまづいてしまう。しかも転んだ先に尖った溶岩があれば、手や顔面が血で染まる。

会場に戻るのが難しい

難易度が高く、現在地を特定しにくいテレインである。現在地を完全に失えば、会場に戻ってくるのが難しい。

特に霧が発生した場合、遭難の危険性が高くなる。

今回の大会は天候に恵まれ、テレインのどの位置からも三原山と外輪山上にある大島温泉ホテル（会場）が見えていた。晴れの時と霧の時の難易度格差が大きいテレインなのだ。

情熱がつむぎだした大会

この大会は日本で屈指の競技力を誇る地域クラブ「ES 関東」により提供された。オリエンテーリングのエキスパートが揃ったこのクラブでも、この伊豆大島大会を作り上げることは簡単ではなかったという。

まずはこのテレインをオリエンテーリングで使用する許可を得るところから始まり、この複雑なテレインを0-map化、そしてここにきちんとコースを作り上げるといった一連の作業は大変だったようだ。特にフラッグ設置作業は念には念を入れても、最後の確認で設置ミスが見つかったらしい。

何事もなく大会は進行したが、その裏は多大な努力に支えられていたことは想像に難くない。

この伊豆大島の素晴らしいテレインでオリエンテーリングを提供したいと思うES 関東の皆さんの情熱。これこそがこの伊豆大島大会を紡ぎだしたのだ。

(木村佳司)



テレイン南にある三原山山頂付近から見下ろしたテレイン。溶岩に埋め尽くされたカルデラの平原。